



A: 達成できている
B: ほぼ達成できている
C: あまり達成できていない
-: アンケート対象者なし

校訓
健康・友愛・感謝

児童生徒像
・明るく 強く 生きる人
・自ら学び 考える人
・心豊かで 思いやりのある人

教育目標

- 生命の大切さを知り、希望をもって、たくましく生きる人を育てる。
- 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人を育てる。
- 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりのある人を育てる。

学校像
・みんなが笑顔で、毎日、安心して登校できる学校
・将来に希望をもち、主体的に学ぶことができる学校
・地域住民や保護者から信頼され、期待される学校

教員像
・子ども一人一人の良さや個性を認め、伸ばす教員
・指導力向上のために、常に自己研鑽に励む教員
・強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励する教員

< 今年度の努力目標 >

- 児童生徒の実態や中心的課題を捉え、指導目標・内容を明確にするため、「流れ図」の作成と活用により自立活動の指導の充実に努める。
- 各教科等の年間指導計画や個別の指導計画を活用し、指導と評価の一体化に努める。

<p>小学部</p> <ul style="list-style-type: none"> □「流れ図」をもとに指導目標・内容を設定し、授業者間での振り返りやグループ研修で児童の変容や指導方法の改善を話し合うことで、自立活動の指導の充実に図ることができた。 □各教科の授業について、ミニスタッフ会や動画で授業の振り返りを行い、目標や評価を担当者と共有しながら授業改善に努めることができた。 	<p>中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> □年間を通し様々な場面で、生徒に関する情報共有や指導を見直す話し合い等が日常的に行われるようになり、効果的な指導・支援につながった。 □新様式の活用により、三観点による学習評価を適切に行った。基礎的・基本的な学習内容の定着をより意識した指導実践にもつながっている。 	<p>高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> □スタッフ会において、生徒一人一人の中心的課題と指導目標を確認し、教師間で共有することで、さらなる指導の充実に努めた。 □PDCAサイクルによる授業実践と、見直し・改善により、生徒の実態と目指す生徒像(高等部運営ビジョン)を踏まえた教育課程の編成について再構築を図った。
---	---	--



健康 体

明るく 強く 生きる人
病気を理解し、健やかな体の育成をめざします

- 健康・安全生活の充実
- 体育・健康に関する指導の充実

小:- 中:AA 高:BA 教:AA 保:A
小:- 中:AA 高:BB 教:AA 保:A

友愛 知

自ら学び 考える人
教師の専門性を高め、確かな学力の育成をめざします

- 学力の向上
- 病弱教育の専門性の向上

小:- 中:BB 高:BB 教:AA 保:A
教:BA 保:A

感謝 徳

心豊かで 思いやりのある人
豊かな心の育成と豊かな生活の実現をめざします

- キャリア教育の充実
- 道徳教育や交流及び共同学習

小:- 中:AA 高:BA 教:AA 保:A
小:- 中:AA 高:BB 教:AA 保:A

各種計画
目標
入学
転入出
卒業

学部目標
学級目標
小学部
中学部
高等部

保健部 学校保健委員会

- 良い歯の表彰式や食育講話、薬物乱用防止教室を実施し、歯と口の健康やバランスの良い食事、オーバードーズなどについて学び、健康への意識を高めることができた。
- 性に関する指導研修会を実施し、教師が児童生徒の悩みや思いを受け止める際の配慮や具体的な対応策について学ぶことができた。
- 小中新校舎での物品の整備やトイレ清掃の仕方について表示するなど、校内環境を整えることができた。

生徒指導部

- 交通安全教室や集会等において、道路の安全な歩行の仕方や自動車の内輪差の危険性、交通ルールやマナーの大切さについて学び、児童生徒の安全意識を高めることができた。
- 携帯安全教室では生徒参加型のワークショップを行い、SNSのメッセージやスタンプはコミュニケーショントラブル防止のために送信前に内容を再確認する必要性などについて学ぶことができた。また、集会等において、SNS利用に関する注意を呼びかけることで、情報モラルについて理解を深めることができた。

教務部

- スタッフ会等の場において、自立活動の個別の指導計画(「流れ図」)等を活用することで、病状や障がいの特性に配慮した支援の手立てについてより確に情報を共有化することができた。学部によって差があることが課題である。
- 会議の持ち方について、必要な情報の共有を確実にしながら、適宜オンラインや書面を実施する会議が増えてきた。資料のデータ化(ペーパーレス化)も進み、効率的な会議の運営が図られるようになった。会議の効率化の実現のために一層の推進に向けて取り組んでいきたい。

研修部

- 全病連栃木大会、北海道東北地区病連秋田大会への参加や県特研の開催を通して、病弱教育の専門性の向上を図った。12月には文部科学省より講師を招聘し校内研修講演会を開催した。自立活動の指導をテーマに国の動向や自立活動について知識や理解を深める機会となった。
- 自立活動の指導の充実に向けて、グループで対象児童生徒を決め、それぞれの課題、目標、指導内容などについて共有し、話し合いながら授業改善に取り組んだ。

情報教育部

- AAC(補助代替コミュニケーション)やAT(アシスティブテクノロジー)の考え方を全教員に周知するだけでなく、児童生徒のデジタル社会への対応や情報活用能力、情報モラルの育成について携帯安全教室や情報モラル診断を通して深めることができた。
- 児童の実態に応じて、ICT機器を活用し、多様な学びや深い学びを実現することができた。

小学部

- 係活動や学校行事などで、自分の役割を自信や責任をもって果たす経験を重ねることができた。また、授業や活動の中で自分で選んだり決めたりするなど、児童の主体的な意思決定を育むことを意識して指導にあたることができた。
- 学級を越えた学習や行事を通して、友達を意識し、相手に合わせて行動したり優しい気持ちで接したりする態度を育てることができた。また、地域の小学校や老人会との交流を通して、人とかかわる楽しさを感じ経験を広げることができた。

中学部

- キャリアパスポートを活用することで、短期的な振り返りだけでなく長期的な視点をもった学習にも発展させることができた。今後も継続し学びを深めていく。
- 地域の中学校や高齢者福祉施設との交流では、生徒が交流先を考えてアンケートを実施しながら交流内容を企画するなどより主体的な態度を養うことができた。

高等部

- 地域の企業や事業所の方の職業との向き合い方や考え方に触れる学習を通して、自分が将来働くことや、社会人になることについて感じたり考えたりする機会を設定した。自己の変化や成長を感じられるよう、振り返りの活動を大事にし、他者評価や自己評価を活用した。
- 「生徒理解のためにできること」について学部会で協議し、個人やチームで大切にすべきことやポイントをまとめ、共有した。小さな変化を見逃さず、生徒の状態に合わせた生徒との対話、教員間での対話を大切にしている。

進路指導部

- 職業及び社会生活に必要な知識・技能・態度の習得の場として、地域の資源を活用しながらデュアルシステム型学習を展開することができた。
- 全学部においてキャリアパスポートを作成した。過去の「振り返り」と未来の「見通し」を柱とした内容精選と有効活用ができるよう、児童生徒への周知方法等も含め更に検討を重ねていく必要がある。

○地域をつなぐ相談・支援(地域支援センターきらりの活用) ○地域を支える特別支援教育の推進(研修会の実施) ○児童思春期病棟との連携・協力(関係機関との連携) 概:AA

- 特別支援教育アドバイザーを中心に保健、福祉等の各関係機関との連携し、個別的教育支援計画の活用を行いながら、相談・支援に関する情報を共有するとともに切れ目のない支援を行った。また、病弱・身体虚弱の子ども一人一人の障がいの状態等、特別な指導内容、教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容、の3つの観点を整理できるような相談支援を行った。
- 地域の先生方からのニーズが高い、精神科医師を講師とし、特別支援教育研修会を開催した。県内より200名の先生方に参加いただいた。
- 入院児童生徒支援員を中心に児童生徒個々のニーズに応じた学習環境の調整を行うため、思春期病棟や各関係機関と連携を構築し、継続した支援を行った。